



ビタミン



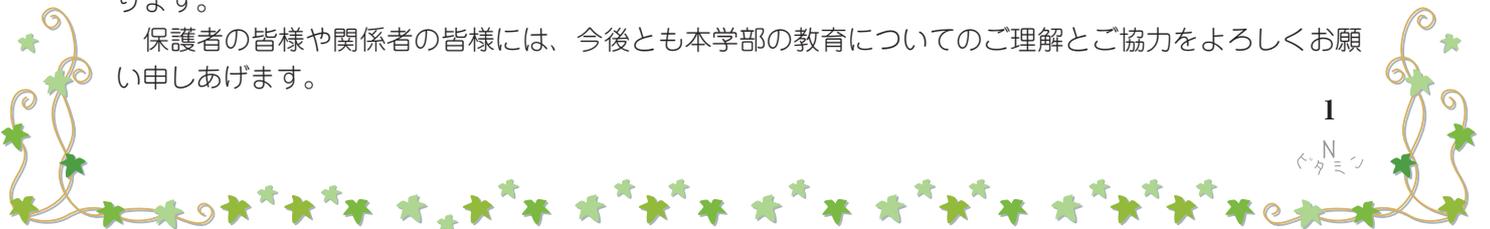
## 看護学部長挨拶

看護学部長・教授 春山早苗

看護師、保健師、助産師の養成機関は、大学であっても、専修学校であっても、厚生労働省、文部科学省、両省が定める指定規則に示されている教育内容を最低限含めて、教育課程（カリキュラム）を構築する必要があります。つまり、指定規則は、教育水準、ひいては養成される看護師、保健師、助産師の水準を最低限度一定にするために、定められているものです。大学の場合には、これに加えて、学士力を培うことや各大学の理念及び養成する人材像に沿った教育内容を加味することが必要となります。学士力とは、多文化・異文化も含めた文化・社会と自然に関する知識の理解や、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力などの知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能、チームワークやリーダーシップ、倫理観や社会の一員としての意識と社会の発展へ積極的に関与する態度、そして獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力とされています。自治医科大学看護学部は、高度な医療とへき地を含む地域の住民の保健医療福祉に貢献できる総合的な看護職の育成を目指しており、このために全ての学生が看護師と保健師の、併せて5名程度の学生は助産師の国家試験受験資格を得られるカリキュラムとしています。これは、看護系大学が300校に届きそうな状況において、本学部の大きな特色になっています。

厚生労働省において、2018年4月に「看護基礎教育検討会」が発足し、前述した指定規則等の見直しが始まり、現在も議論中です。看護師教育については、実に10年以上ぶりの見直しとなります。私もこの検討会の構成員の一人ですが、見直しの背景にはどのようなことがあるのでしょうか。その背景には、少子高齢化の進行に加えて人口減少時代に入ったわが国では、この変化に応じた適切な医療提供体制の整備が必要であること、看護職の就業場所が医療機関に限らず在宅や施設等へ広がっており、多様な場において、医師等多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待されていること、患者の多様性・複雑性に対応した看護を創造することがより一層求められていること、保健師においては持続可能でかつ地域特性を活かした健康なまちづくりや災害対策の推進等が、助産師においては女性の健康について家族や地域社会に広く貢献することが期待されていること等があります。そのため、看護師教育については、地域のアセスメント並びに人々の健康増進や予防を含めた多様な場で多様な人々へ看護を提供できるための能力等、保健師教育については少子高齢化等に伴う新たな健康課題に取り組み、解決に向けて対応策を企画し講じることができるとの能力等、助産師については女性、母親・子ども・父親、家族のライフサイクル全てにおいて、生涯にわたる健康増進・予防・課題解決のために適切かつ継続的に支援ができるための能力等を強化する教育について、検討が進められています。このような強化すべき能力をもつ看護職は、複数の看護職の資格を持ち、それを活かして国内外の様々な場で活躍していくという本看護学部が育成を目指す看護職像と重なり、本学部の卒業生が今、まさに求められており、さらには将来を担う看護職として期待されているといえます。「看護基礎教育検討会」の議論は本年度中に終了し、それを踏まえて新たな指定規則が2022年度から適用される予定であり、本学部においても、さらに充実した教育にするべく、今後、カリキュラムを見直していくこととなります。

保護者の皆様や関係者の皆様には、今後とも本学部の教育についてのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 授業科目の紹介

教務委員長・教授 横山 由美



本看護学部のカリキュラムは、看護専門職に必要な基礎的能力を教授するという観点から、環境、人間、健康、看護を主要概念とし、基礎科学分野、看護学分野、総合分野の3分野から構成されています。今回はその中でも、基礎科学分野の選択科目で1年次と4年次に配置されている「芸術と表現」と総合分野の必修科目で4年次に配置されている「看護トピックス」についてご紹介致します。

看護専門職においては、専門分野における深い学びが重要なのは言うまでもありませんが、向かい合う対象の方は医療職や看護職の人というわけではありません。幅広い知識と感性を磨いていくことが求められています。

看護はアートでありサイエンスであります。その観点からすると「芸術と表現」はまさに看護職にとって興味のある科目だと思います。本科目は「文学、音楽、映画、絵画・彫刻、演劇などを通じて、人間の創造性、美意識、精神世界などを探求し、柔軟な人間性と美的感覚を育む。自己表現の能力を養う」ことを目標としています。毎回の授業の中で芸術に触れながら思考していくことができます。実際にはハリウッド映画や日本映画の表現の特徴や作家による表現の違いを理解したり、絵画や建築物などの美術を通して社会・文化的意味や役割を踏まえつつ象徴表現について考えたりするなどです。

次に「看護トピックス」をご紹介します。本科目は「高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ」ことを目的としています。本年度は8テーマあり、例えば、「生命倫理・生殖医療・先端再生医療について」では、宇都宮大学農学部附属農場へ出向き、産業動物の人工授精および体外受精の見学、そして顕微授精の体験を行っています。これら産業動物の繁殖技術は、ヒト不妊治療の基礎技術でもあります。実際にこれらの技術体験を行うことで、ヒト不妊治療について考える機会を設けています。また、「ICLSコースを通じて考える急性期看護の光と影」では授業を受講しながら、自治ICLSコース（日本救急医学会認定）の修了を得ることができます。

4年間で学べるものには限りがありますが、幅広い知識を得、看護職としての感性が磨かれるような授業を今後も展開していきたいと思っております。

## 看護学部 学科目別教員一覧 (令和元年5月1日現在)

学科目	職位	氏名	備考	学科目	職位	氏名	備考
看護基礎科学	教授	大塚 公一郎	学生委員長 学年担当アドバイザー総括	母性看護学	教授	成田 伸	国家試験対策委員長 4学年担当アドバイザー
	准教授	倉科 智行	1学年担当アドバイザー		教授	野々山 未希子	
	准教授	平尾 温司			准教授	角川 志穂	
	講師	鹿野 浩子			講師	望月 明見	
講師	関山 友子		助教	北守 美佳			
基礎看護学	教授	本田 芳香	1学年担当アドバイザー	小児看護学	教授	横山 由美	教務委員長 3学年担当アドバイザー
	教授	小原 泉			准教授	田村 敦子	
	准教授	福田 順子			助教	飯島 早絵	
	講師	八木 街子			助教	小西 克恵	
地域看護学	講師	湯山 美杉	1学年担当アドバイザー	成人看護学	教授	村上 礼子	2学年担当アドバイザー
	助教	石井 典子			准教授	佐藤 幹代	
	助教	猪瀬 高子			講師	長谷川 直人	
	助教	高山 温子			助教	古島 幸江	
精神看護学	教授	春山 早苗	看護学部長	老年看護学	助教	佐々木 彩加	3学年担当アドバイザー
	教授	塚本 友栄	広報委員長		助教	谷島 晴香	
	講師	青木 さぎ里	4学年担当アドバイザー		助教	渡邊 賢治	
	講師	江角 伸吾	3学年担当アドバイザー		総合科目	教授	
講師	島田 裕子	2学年担当アドバイザー	准教授	川上 勝			
精神看護学	講師	土谷 ちひろ	4学年担当アドバイザー	准教授	浜端 賢次	看護師特定行為研修センター本務	
	助教	横山 絢香		講師	清水 みどり		
	助教	永井 優子		4学年担当アドバイザー	兼務		教授
助教	半澤 節子	助教	鈴木 美津枝				
	助教	石井 慎一郎					
	助教	富川 明子					

## 看護基礎セミナーで学んで欲しいこと

老年看護学 准教授 浜 端 賢 次



1年生が受講する「看護基礎セミナー」には、2つの到達目標があります。一つ目は「多様な年代の様々な立場にある人々の生き方について理解できる」、そして二つ目は「大学で学ぶことの基礎となるスタディ・スキルを身につける」です。

本学では、毎年5月に実施するバーベキューの場を活用して、大学教職員との交流を行っています。そこでは、様々な知識や経験を有する教職員が参加しており、世代の違う人々の生き方や考え方、そして価値観等に触れることができます。ここでの学びは、看護学部の教員によるセミナーでさらに深められ、これから出会う患者様やご家族との関係作りや看護へと繋がっていきます。

次にスタディ・スキルですが、本科目では「図書館の活用方法、レポートの書き方、グループディスカッション、プレゼンテーション」等が学べます。大学の講義・演習・実習では、課題の提出やグループ討議を行うことが求められます。そこで、図書館職員の方々にご協力いただき、図書館の機能や資料検索方法を少人数で学ぶ機会を設定しています。また、4年間の学習では多くのレポート課題の提出が求められます。高校までの作文や感想文とは異なり、大学ではレポートの書き方を身につける必要があります。本科目でもレポートの書き方から作成方法までの講義がありますので、レポート作成の基礎を身につけて欲しいと考えています。最後に、グループディスカッションとプレゼンテーションですが、こちらはセミナーで学ぶことができます。セミナーは、学生7～8名に対して教員2名体制で実施しています。グループディスカッションで自分とは違う考え方を発見し、プレゼンテーションでは自分の考えを相手に伝える大切さが学べます。セミナーを通して、人間・健康・環境・看護等に触れ、大学で学ぶスタディ・スキルをしっかりと身につけて欲しいと願っています。



バーベキュー前の打ち合わせ



新入生と大石理事長、永井学長、春山学部長



バーベキューの締めは焼きそばです!!



先生を囲んで1枚!

## モンゴル国立医科大学との国際交流

平成30年8月20日から25日まで、総合分野の科目「へき地の生活と看護」の一環として、看護学部教員2名、1年生3名および3年生5名の計10名で、モンゴル国立医科大学ウランバートル校およびダルハン校を訪問しました。現地では、医療施設の見学、国際協力機構（JICA）モンゴル事務所訪問、現地の看護学生との交流等が行われました。また、ダルハン校と看護学部は新たに国際交流協定を締結しました。



モンゴル国立医科大学ダルハン校との協定締結後の集合写真



調印式終了後の一枚  
バイサー学部長（左）と半澤教授（右）



調印式におけるバイサー学部長のスピーチ



看護学部生によるスピーチ



お土産にダルハン校のマグカップを頂きました！

## ～モンゴル国立医科大学との国際交流に参加して～

4年 大阿久 智陽

今回、私はモンゴルの医療現場を視察してきました。現地の病院は、日本と比べると医療機器の不足が目につきました。しかし、そうしたハンディキャップがありながらも、モンゴルの医療現場では、職種間で上手く連携をとりながら、業務を遂行している点が印象に残りました。また、モンゴルの大草原にも足を運ぶことができ、日本では見られない大自然に癒されました。ご興味のある方は、是非、モンゴルとの国際交流に参加してみてください。きっと、世界観が変わると思いますよ。



果てしなく広いモンゴルの大草原



大草原での記念撮影



ゲル（モンゴルの移動式住居）の玄関



ゲルの内部



ウランバートル市内のショッピングモール



モンゴルのソフトクリームは濃厚な味でした！

## 対象の理解実習について

2年 桑原大和

「対象の理解実習」は、1年次の6月の初旬に約1週間かけて行われる入学後初めての实習です。附属病院の病棟や外来に赴き、高度医療現場における看護師の实践を間近で観察することの他に、薬剤部やリハビリテーションセンター、及び中央材料室などの関連部門での見学や病院内で生じた感染性廃棄物の処理施設の見学等も行います。さらに直接入院患者さんとコミュニケーションを取らせていただく機会が設けられています。患者さんがお話くださる入院生活や健康状態に対する受け止め方などからこれまで2か月間学んできた健康、環境、看護についてあらためて考えることや看護の役割や多職種との連携についても理解を深めるプログラムになっています。

患者さんとのベッドサイドでのコミュニケーションはとても緊張しましたが、入院生活について、不慣れな点もありながらも、医療者を信頼し前向きに治療に臨んでいることがわかりました。患者さんから男性看護師の活躍への期待や励ましの言葉をいただき、とても嬉しく今でも私自身の励みになっています。

私がかけていただいた看護師は全身の清拭や必要な薬剤の投与、体温や血圧の測定、検査データの確認、医師への伝達などその他にも多くのことを迅速に処理していました。身体的なケアだけでなく生活リズムを整えることや、治療時の痛みの軽減について、患者さんと相談し患者さんの思いを尊重したケアを行っていました。また常に笑顔で接していました。このような看護師の实践を目の当たりにし、深い感銘を受けたのと同時に、自分でも同じような状況に遭遇した場合に、果たして同じような行動がとれるような看護師になれるのか、これからももっとしっかり学習しなければとも思いました。

今までは漠然としたイメージしか浮かばなかった看護師の仕事について、この実習で具体的なイメージをもつことができるようになりました。

上級生になると、授業や演習も本格的になっていき、ハードルも高くなりますが、今回の実習で得られた経験を基により一層努力していきたいと思えます。

## ラボルームの紹介コーナー

今回はスキルズラボV（旧：成人看護学演習室）をご紹介します。スキルズラボVには、高度医療の環境を模した特殊なベッドや点滴ポンプ、生体監視モニターなど、実際の臨床現場で使用されている機器が揃っており、さらに、心臓・肺・腸の音を聴診できるシミュレータや心肺蘇生の訓練人形も常時使用できるような環境が整備されています。学生たちは、実践的な看護支援を探究するために健康課題をもつ患者の模擬体験の演習を行ったり、実習で安全な看護技術を提供できるように練習する場として活用しています。



演習開始直後のスキルズラボVの様子



学生も技術の習得に真剣です



学生を温かく見守る成人看護学の先生



よく見て行いましょう

## 第1回 教員の研究活動紹介

### ～誤嚥防止スプーン（スマイルスプーン）の開発～



老年看護学 准教授  
川上 勝

記念すべき第1回は、老年看護学 川上勝准教授の研究をご紹介します。先生の近年の研究成果の一つに、誤嚥防止スプーン\*があります。この誤嚥防止スプーンは、世界初の機構であるスライド方式が採用されており、介助者がスプーンですくった食べ物を、スプーンの色を変えずに、介助される方が飲み込みやすい位置に食べ物を届けることが可能になっています。そのため、誤嚥の発生率を低下させる可能性が高いことから、嚥下障害を持つ方にとっては、有用なスプーンであると言われています。この誤嚥防止スプーンを開発するあたり、先生は迅速な試作のために3Dプリンターを活用しました。また、実用性の高いデザインを決めるために摂食嚥下認定看護師の戸田氏と協働で2年近く試行錯誤を繰り返しました。こうした努力の結果、誤嚥防止スプーンは地元、栃木県の企業である株式会社サカエ工業からスマイルスプーンの商品名で販売されており、現在は特許出願中でもあります。

川上先生は、「アイデアは必ずカタチになる」と信じ日々活動されています。本学の卒業生および在校生のみなさんも、川上先生が開発したスマイルスプーンのように、より良い看護を実現するためにモノ作りに取り組みたい方が多いのではないでしょうか。

\*誤嚥：食べ物が食道ではなく、気管へ入ってしまうこと。



共同研究者の戸田浩司氏（左）と川上准教授（右）



試作機を作製した3Dプリンター



スマイルスプーンの色は3種類



ゼリーをすくいます



レバーを押すとゼリーが押し出されます

## 平成30年度自治医科大学卒業式および学位記伝達式

平成31年3月1日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、総務大臣（代理：宮地大臣官房総括審議官）、栃木県知事（代理：森澤保健福祉部長）、渡邊栃木県看護協会会長をはじめ、各界を代表される先生方、保護者のご出席のもと、平成30年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行了されました（医学部42期生124名、看護学部14期生104名）。式典では、看護学部を代表して小俣遥奈さんに、永井学長から卒業証書・学位記が授与されました。卒業式終了後、看護学部校舎において、学位記伝達式が開催されました。



## 謝 恩 会

平成31年3月1日（金）、卒業式および学位記伝達式に引き続き記念棟12階において、謝恩会が開催されました。



## 平成31年度 自治医科大学入学式

平成31年4月5日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、総務大臣（代理：安田総務事務次官）、栃木県知事（代理：森澤保健福祉部長）、栃木県看護協会会長（代理：鱒淵専務理事）をはじめ各界を代表される先生方、保護者の出席のもと、平成31年度自治医科大学入学式が執り行われました。

今年度は、医学部123名（第48期生）、看護学部105名（第18期生）が入学し、看護学部を代表して、小俣杏実さんが誓いの言葉を読み上げました。



## 平成31年度 年間スケジュール

	前 学 期					後 学 期						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	入学式（5日） 前学期授業開始（2日） 春季休業（4月27日～5月6日） 創立記念日（14日） 新入生交流会（16日） オープンキャンパス（18日）			4年次定期試験（11日～16日） 1・2年次定期試験（23日～30日） オープンキャンパス（27日）	夏季休業（8月7日～9月23日） オープンキャンパス（23日）	後学期授業開始（24日） 再試験（2日～4日）	薬師祭（学園祭）11日～13日		冬期休業（12月21日～1月3日）		再試験（2月28日～3月2日） 1・2年次定期試験（7日～14日）	学年末休業（14日） 卒業式（6日）
1年		「対象の理解実習」 6/3～6/7										
2年				「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 9/26～10/28								
3年	「前学期実習」 5/7～7/19							「後学期実習」 11/18～2/14				
4年				「総合実習」 7/22～8/2			助産学実習（選択） 8/26～11/1					
全体	春季休業 4/27～5/6			夏季休業 8/7～9/23					冬期休業 12/21～1/3			学年末休業 3/14～

## くすし 薬師祭の紹介

3年 橋本穂香

薬師祭は、毎年10月の初旬に開催される自治医科大学の学園祭です。昨年度（平成30年度）の薬師祭は「Re:Lation」というテーマの下に開催されました。このテーマは、都道府県の繋がり、自治医科大学と地域の繋がりなど様々な繋がり～Lation～の大切さを感じられるような学園祭にしたいという思いやさらなる薬師祭や地域の発展のために再び動き出す～Re～という思いが込められたテーマになっています。昨年は3日間にわたり、のべ2000人の方々にご来場いただきました。

薬師祭で毎年行われている企画には、縫合体験や採血体験、聴診体験、心肺蘇生体験など医療系大学ならではの企画があります。特に昨年は「神様のカルテ」の著者である夏川草介先生をお呼びし、講演会を実施したところ、当初用意していた座席数では足りず、立ち見スペースを設けるなど、多くの方々にご来場いただきました。その他にも一昨年から行われている風船飛ばしでは、300個用意した風船があっという間に空いっぱい広がる様子は、まるで自治医大から地域へ向かって伸びる架け橋のように見え、感動で胸がいっぱいになったのを今でも覚えています。

私は平成30年度の副実行委員長として、薬師祭の運営に携わりましたが、約半年間に渡る準備期間中の会議は、講義や演習の合間を縫って行われるため、時には実行委員同士で感情がぶつかり合うこともあり、体力的にも精神的にも決して楽な運営ではありませんでした。しかし、薬師祭が無事に終了した後の達成感は非常に大きいものがあり、ぶつかり合っていた委員も最後はみんな笑顔で握手を交わしていました。薬師祭の運営を通じて、実行委員会の構成メンバーの心が絆で繋がったように思っています。そんな私たちの薬師祭へ一人でも多くの方にご来場いただき、感動をみなさまと分かち合いたいと思います。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



看護学部4年生(当時)によるミニモノ



こちらも4年生(当時)による学年ダンス



ルート4による演奏



看護学部2年生ペア(ダンス部)によるダンス

### 第48回 薬師祭の ご案内

自治医科大学学園祭「第48回薬師祭」が10月11日(金)～13日(日)の3日間、自治医科大学キャンパスにて開催されます。今年のテーマは、「おもい≒えがお」です。このテーマには自治医大生が普段抱えている想いを薬師祭で笑顔をもって表現し、それを見ている方々が笑顔になり何かしらの思いを感じてほしいという気持ちが込められています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

## 平成30年度 学校法人自治医科大学決算について

5月29日(水)に開催された理事会及び評議員会において、平成30年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。

### 1. 資金収支計算書 1年間に実際に収入又は支出した金額(現金ベース)を主として科目別に分類して表した決算書です。

(単位 百万円)

収入の部			
科目	H30決算	H29決算	差異
学生生徒等納付金収入	( 3,582)	( 3,608)	( △26)
寄附金収入	( 599)	( 564)	( 35)
補助金収入	( 11,049)	( 11,264)	( △215)
医療収入	( 67,364)	( 65,249)	( 2,115)
その他の収入	( 25,102)	( 28,107)	( △3,005)
<b>収入の部合計</b>	<b>107,696</b>	<b>108,792</b>	<b>△1,096</b>

(単位 百万円)

支出の部			
科目	H30決算	H29決算	差異
人件費支出	( 34,757)	( 33,978)	( 779)
教育研究経費支出	( 3,608)	( 3,751)	( △143)
医療経費支出	( 37,269)	( 35,465)	( 1,804)
管理経費支出	( 2,444)	( 2,295)	( 149)
施設関係支出	( 4,095)	( 8,602)	( △4,507)
設備関係支出	( 6,362)	( 4,679)	( 1,683)
その他の支出	( 19,161)	( 20,022)	( △861)
<b>支出の部合計</b>	<b>107,696</b>	<b>108,792</b>	<b>△1,096</b>

### 2. 事業活動収支計算書 企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

(単位 百万円)

教育活動収入の部			
科目	H30決算	H29決算	差異
学生生徒等納付金	( 3,582)	( 3,608)	( △26)
寄附金	( 610)	( 592)	( 18)
経常費等補助金	( 10,290)	( 10,235)	( 55)
医療収入	( 67,364)	( 65,249)	( 2,115)
その他の収入	( 2,880)	( 2,972)	( △92)
<b>教育活動収入計</b>	<b>84,726</b>	<b>82,656</b>	<b>2,070</b>
事業活動支出の部			
科目	H30決算	H29決算	差異
人件費	( 35,044)	( 33,473)	( 1,571)
教育研究経費	( 5,810)	( 5,809)	( 1)
医療経費	( 43,923)	( 41,894)	( 2,029)
管理経費	( 3,294)	( 3,164)	( 130)
徴収不能額等	( 2,900)	( 2,928)	( △28)
<b>教育活動支出計</b>	<b>90,971</b>	<b>87,268</b>	<b>( 3,703)</b>
<b>教育活動収支差額</b>	<b>△6,245</b>	<b>△4,612</b>	<b>( △1,633)</b>
教育活動外収入の部			
科目	H30決算	H29決算	差異
受取利息・配当金	( 123)	( 140)	( △17)
<b>教育活動外収入計</b>	<b>123</b>	<b>140</b>	<b>△17</b>
教育活動外支出の部			
科目	H30決算	H29決算	差異
借入金等利息	( 6)	( 8)	( △2)
<b>教育活動外支出計</b>	<b>6</b>	<b>8</b>	<b>△2</b>
<b>教育活動外収支差額</b>	<b>117</b>	<b>132</b>	<b>△15</b>
<b>経常収支差額</b>	<b>△6,128</b>	<b>△4,480</b>	<b>△1,648</b>

(単位 百万円)

特別収入の部			
科目	H30決算	H29決算	差異
資産売却差額	( 0)	( 0)	( 0)
その他の特別収入	( 829)	( 1,107)	( △278)
<b>特別収入計</b>	<b>829</b>	<b>1,107</b>	<b>△278</b>
特別支出の部			
科目	H30決算	H29決算	差異
資産処分差額	( 112)	( 602)	( △490)
その他の特別支出	( 0)	( 0)	( 0)
<b>特別支出計</b>	<b>112</b>	<b>602</b>	<b>△490</b>
<b>特別収支差額</b>	<b>717</b>	<b>505</b>	<b>212</b>
[予備費]			0
基本金組入前当年度収支差額	△5,411	△3,975	△1,436
<b>基本金組入額合計</b>	<b>△8,941</b>	<b>△8,482</b>	<b>△459</b>
<b>当年度収支差額</b>	<b>△14,352</b>	<b>△12,457</b>	<b>△1,895</b>
<b>前年度繰越収支差額</b>	<b>△72,904</b>	<b>△60,447</b>	<b>△12,457</b>
<b>基本金取崩額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>翌年度繰越収支差額</b>	<b>△87,256</b>	<b>△72,904</b>	<b>△14,352</b>
(参考)			
<b>事業活動収入計</b>	<b>85,678</b>	<b>83,903</b>	<b>1,775</b>
<b>事業活動支出計</b>	<b>91,089</b>	<b>87,878</b>	<b>3,211</b>

### 3. 貸借対照表 30年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

(単位 百万円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
<b>固定資産</b>			
有形固定資産			
土地	11,446	11,446	0
建物	75,046	68,982	6,064
構築物	2,282	2,502	△220
その他の有形固定資産	27,420	32,628	△5,208
<b>小計</b>	<b>116,194</b>	<b>115,558</b>	<b>636</b>
特定資産			
退職給与引当特定資産	8,620	8,625	△5
減価償却引当特定資産	21,494	28,567	△7,073
その他特定資産	10,037	9,655	382
<b>小計</b>	<b>40,151</b>	<b>46,847</b>	<b>△6,696</b>
その他の固定資産	4,489	4,573	△84
<b>固定資産合計</b>	<b>160,834</b>	<b>166,978</b>	<b>△6,144</b>
<b>流動資産</b>			
現金預金	5,977	5,729	248
未収入金	12,107	12,425	△318
その他の流動資産	708	621	87
<b>流動資産合計</b>	<b>18,792</b>	<b>18,775</b>	<b>17</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>179,626</b>	<b>185,753</b>	<b>△6,127</b>

(単位 百万円)

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
<b>固定負債</b>			
長期借入金	283	433	△150
長期未払金	821	895	△74
退職給与引当金	14,551	14,264	287
<b>固定負債合計</b>	<b>15,655</b>	<b>15,592</b>	<b>63</b>
<b>流動負債</b>			
短期借入金	150	150	0
未払金	7,830	8,585	△755
その他の流動負債	555	579	△24
<b>流動負債合計</b>	<b>8,535</b>	<b>9,314</b>	<b>△779</b>
<b>負債の部合計</b>	<b>24,19</b>	<b>24,906</b>	<b>△716</b>
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
<b>基本金</b>			
第1号基本金	230,395	221,454	8,941
第3号基本金	6,856	6,856	0
第4号基本金	5,441	5,441	0
<b>基本金合計</b>	<b>242,692</b>	<b>233,751</b>	<b>8,941</b>
<b>繰越収支差額</b>			
翌年度繰越収支差額	△87,256	△72,904	△14,352
<b>繰越収支差額合計</b>	<b>△87,256</b>	<b>△72,904</b>	<b>△14,352</b>
<b>純資産の部合計</b>	<b>155,436</b>	<b>160,847</b>	<b>△5,411</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>179,626</b>	<b>185,753</b>	<b>△6,127</b>

※財務状況等の詳細は、大学ホームページ[http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public\\_info/index.html](http://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.html)の「情報公開」でご覧になれます。

#### 4. 平成30年度事業の概要について（大学事業報告書より、看護学部関係抜粋）

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施しました。

##### ① 学生教育に関すること

- ・これまでの看護師・保健師・助産師の国家試験における高い合格率を維持するために、国家試験を受験する4年生を対象に国家試験ガイダンスを4月に、3年生を対象に11月に開催しました。併せて、国家試験模試（4年生対象／看護師3回・看護師必修（選択）1回・保健師3回、3年生対象／1回、2年生対象／1回）と、4年生を対象に国家試験対策ゼミを計21回開講しました。
- ・保健師対策ゼミ（Moodle使用）、2年生国家試験ガイダンス、休日の校舎開放（国家試験前6日間）、国家試験の自己採点を実施しました。
- ・実習教育を充実させるため、メディカルシミュレーションセンターを活用し、一次救命処置研修会等を実施しました。
- ・モンゴル国立医科大学看護学部との国際交流を新たに行うこととし、教員2名、学生8名を5日間派遣し、施設見学や看護学生と合同演習などを行いました。

##### ② 学生の受入れ・支援に関すること

- ・看護学部紹介DVDを新しく作成し、学生生活支援に係る看護学部独自の奨学金制度や看護学生寮等をアピールし、オープンキャンパスや進学説明会において効果的かつ重点的な広報活動を行い、志願者確保に努めました。
- ・相談ルームレターを定期的に発行し、また学年担当アドバイザーなどの教員を通して看護学部及び看護学研究科の学生に対し、学業・生活・進路等の相談ができる相談ルームの存在を周知しました。

##### ③ 研究に関すること

- ・看護学部共同研究費による教員と看護職等との共同研究を10件実施しました。また、臨地の看護職等に対し、研究の計画立案及び実施に関する支援を11件実施しました。さらに、臨地での看護研究に係る指導者育成を目的として師長を対象とした講義を実施しました。
- ・研究費獲得促進のため、教員向けに教育研究ミーティングを開催し、活発な情報交換を行い、競争的研究費獲得を含めた研究活動への促進を図りました。平成31年度文部科学省科学研究費申請は6件でした。また、平成29年度に引き続き、間接経費による研究補助者1名を雇用し、データ集計等の作業の効率化を図ることができました。
- ・ブータン医科大学教員との共同研究に関し、日本での調査を実施するとともに、ブータン医科大学教員との研究打合せを行いました。

#### 編集後記

令和最初のビタミンN 16号を発刊しました。元号が変わっても、編集方針に変わりはありません。今後よろしくお願いいたします。  
(担当 平尾、福田、上野)

ビタミンN 第16号

発行日 令和元年8月1日

発行 自治医科大学看護学部

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-58-7409（看護総務課）

E-mail vitaminen@jichi.ac.jp